



国際連合食糧農業機関ローマ本部 林業部
準専門家 伊東 瑠実子



シチリア島の古代ローマ円形劇場と現在の市街地

国連機関と森林分野の 国際協力

ヨーロッパ南部、地中海沿いに位置する歴史と文化の国イタリア。その首都であるローマは、コロッセオに代表される古代ローマ帝国の遺跡や、バチカンのサン・ピエトロ大聖堂をはじめとするカトリック教会、ルネサンスやバロックの芸術品が

国際機関での勤務

多彩な森の広がるイタリアから

集約する都市として有名です。一方で、ローマは複数の国連機関の本部が置かれている都市でもあります。その一つが、国際連合食糧農業機関（FAO）です。

FAOは世界の貧困撲滅を目標に掲げて第二次世界大戦後に立ち上げられた国連の専門機関で、各国政府や国際的な基金などから拠出された資金をもとに、農林水産業の調査・分析や情報提供、国際的な議論の場の提供、開発途上国への技術協力などを進めています。森林・林業分野では世界の森林面積などの主要統計データを取りまとめるとともに、森林減少・劣化の抑止や気候変動対策、山火事防止など、SDGsの達成に貢献する多方面のプロジェクトを実施しています。

日本の国際プロジェクト

私は2024年9月からFAO林業部に派遣されており、持続可能な森林経営と木材利用についての情報収集・分析や優良事



FAO (Food and Agriculture Organization of the United Nations) の看板



国際連合食糧農業機関（FAO）ローマ本部の外観



国際森林デーのFAO本部イベントでの木製楽器の展示

例の発信、そして日本の農林水産省が支援を予定している森林の生物多様性に関する国際協力プロジェクトの立ち上げを担当しています。近年、生物多様性の喪失は地球温暖化や異常気象と同様に世界規模のリスクとして認識されるようになりました。2022年に生物多様性条約第15回締約国会議において採択された生物多様性に関する新しい世界目標「昆明・モントリオール生物多様性枠組」に代表されるように、生物多様性の保全・持続可能な利用を求める国際的な動きが広まっています。こうした背景を踏まえ、生物多様性を保全しつつ森林資源を循環利用するための多国籍プロジェクトを予定しています。

日々の業務では、主にプロジェクトの詳細計画の策定や、現地実証を行うアジア・アフリカ地域の対象国に関する情報収集、

関係者へのヒアリング、FAO内部の各種手続きを進めています。FAOローマ本部には世界各地から職員が集まり、英語をはじめとする国連の公用語でコミュニケーションが行われています。当初は、英語での情報交換や仕事文化の違いに慣れない部分もありましたが、林業部の同僚や日本人職員の知恵をお借りしつつ業務を進めており、今はプロジェクト開始後に現地サイトを訪問する日を心待ちにしています。また、ローマ本部では国際会議にあわせて、世界各国の森林に関する取組を紹介するイベントが開催されており、世界の森林の現状を知る良い機会になっています。加えて、昨年タイで開催された第31回アジア太平洋林業委員会では参加者向けのサイドイベントを主催し、私からは日本の森林経営の模範的な事例について情報発信を行いました。

おわりに

週末を利用して時々イタリア各地の山林へ足を運びます。イタリアは生物多様性に富んだ国ということもあり、北部のアルプス山脈の針葉樹林から中部のブナ林、地中海沿岸の海岸林まで、多彩な森林を目にすることが出来ます。また、かつて地中海貿易を支えた木造船やワイン樽、ピアノやヴァイオリンといったイタリアで生み出された木製楽器に目を向けると、石造建築が発展してきたイタリアにおいても、木材製品を使うことが人々の生活や文化に深く根付いてきたことを実感します。

イタリア各地の山林の風景（筆者撮影）



地中海沿いに広がる森



北部ドロミテの雪山と針葉樹林



山あいでの牛や馬の放牧



中部の町チヴィタ・ディ・パニョレージョからの遠景